

1-6 英文学

研究・教育活動の概要と特色

[研究活動]

英文学研究室は、初代教授土居光知以来、歴史主義的な方法論を基盤とする研究を行ってきた。英文学の領域は8世紀頃から現代にまで至る広大なものであるが、当研究室がカバーしているのは、主として16世紀のイギリス・ルネサンス期から現代に至るまでの近代英文学である。ジャンルとしては、詩、演劇、18世紀以降の小説を主として研究してきている。これらを思想史、風俗史、民衆史の中で捉えようとするのが、研究室の伝統となっている歴史主義的な研究である。そこでは一次資料の厳密なテキスト分析に根拠を置くことを第一の原則としており、さらに個々のテキストを歴史的パースペクティブの中で位置づけることにより、客観性を高めることに留意している。

一方、1960年代以来の英米の批評理論の展開についても十分に意識しており、その優れた部分を柔軟に取り入れつつ、新たな研究方法の開拓にも取り組んできている。近年はポストコロニアリズム批評・新歴史主義批評に基づいた研究も行われているが、テキスト分析を重視することにおいては一貫している。

[教育活動]

一学年10名を定員とする学部教育においては、英文学の古典に親しみ、同時に英語読解能力を涵養することを目的とした教育が行われている。具体的には3年次学生に対して、大学院生が指導者となって英詩読解を行わせる「詩のオリエンテーション」が実施されている。また、卒業研究として、3・4年次に12冊の原書を数回に分けて読み、課題レポートを提出するという形式の「アサインメント」が行われている。これはすでに半世紀以上の続く伝統的な教育方法である。大学院前期課程においては、高等学校教員をめざす大学院生が増加していることも踏まえて、英語読解能力をさらに高めるための授業を中心にしている。大学院後期課程においては、さらなる英語読解能力の向上とともに英作文能力と論文構成力の訓練に重点を置いている。

I 組織

1 教員数 (2008年4月現在)

教授：1

准教授：2

助手：1

教授：原英一

准教授：岩田美喜、トウィッディ、イーアン

助手：三枝和彦

2 在学生数（2008年4月現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生	科目等履修生
32	0	7	9	0	0

3 修了生・卒業生数（2003～2007年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (満期退学者)	博士学位 授与者
03	6	2	1	0
04	10	2	1	1
05	8	2	3	0
06	13	2	0	3
07	9	2	2	2
計	46	10	7	6

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2004～2008年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
04	1	0	1
05	0	0	0
06	2	1	3
07	2	0	2
08	0	0	0
計	5	1	6

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

早坂 静、2004年度、*Fragmented Bodies, Space, Time, and Identities in the Novels of Toni Morrison and Thomas Pynchon.*

審査委員：教授・原 英一(主査)、教授・中村 捷、外国人教師・ロビンソ

ン、ピーター

大河内 昌、2006 年度、『美学イデオロギー— シャフツベリーからコールリッジへ』

審査委員：教授・原 英一(主査)、教授・中村 捷、教授・尾崎彰弘

Catalin Ghita、2006 年度、“Revealer of the Fourfold Secret: William Blake’s Theory and Practice of Vision”

審査委員：教授・原 英一(主査)、教授・金子義明、助教授・岩田美喜

中村 隆、2006 年度、“Dickens in the Late-Victorian Context: Socio-Cultural, Politico-Economical, and Literary History in *Bleak House*, *Great Expectations* and “Sikes and Nancy”

審査委員：教授・原 英一(主査)、教授・齊藤征雄、助教授・岩田美喜

Kurt Scheibner、2007 年度、“Robert Browning’s Humor in Selected Themes”

審査委員：教授・原 英一(主査)、教授・森本浩一、准教授・岩田美喜

呂 黛、2007 年度、“Love or Death: Women’s Role in Tennyson’s *Idylls of the King*”

審査委員：教授・原 英一(主査)、教授・金子義明、准教授・岩田美喜

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
04	3	5	0	0	8
05	1	6	0	0	7
06	0	5	0	0	5
07	2	6	0	0	7
08	0	0	0	0	0
計	9	27	0	1	37

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
04	0	3	0	0	3
05	0	3	0	0	3
06	0	1	0	0	1
07	2	7	0	0	9
08	0	1	0	0	1
計	2	15	0	0	17

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

福士 航「性と政治の狭間で—*The City Heiress* におけるパフォーマティブな自己形成の可能性について—」『東北英文学会第 58 回大会 Proceedings』, 2004 年 3 月.

鈴木 淳「スーはなぜ敗北したのか?—『日陰者ジュード』におけるパラドックスとしての「自由」—」、『東北英文学会第 58 回大会 Proceedings』, 2004 年 3 月.

福士 航「『ハイド・パーク』におけるセクシュアリティ表象の双方向性について」『川内レビュー』第 3 号、2004 年 3 月.

Suzuki, Jun “The Absurd in Hardy’s “The Doctor’s Legend”, 『川内レビュー』第 3 号、2004 年 3 月.

早坂 静「The Crying of Lot 49 における都市」『川内レビュー』第 3 号、2004 年 3 月.

Ghita, Catalin, “Poetic Quaternaries: William Blake’s Unsystematic System”, *Shiron* 42, 2004 年 12 月.

Masamune, Satoshi, “Timelessness in Angela Carter’s *The Infernal Desire Machines of Doctor Hoffman*”, *Shiron* 42, 2004 年 12 月.

Ghita, Catalin, “Creativity in William Blake: Definite Vision-Inducing Agents”, 『川内レビュー』第 4 号、2005 年 3 月.

Guo, Yan, “Inward Impulse and Outward Fact: Maggie’s Fate in *The Mill on the Floss*”, 『川内レビュー』第 4 号、2005 年 3 月.

Ono, Michiko, “Some Aspects of Early Spring Thoreau Appreciated”, 『川内レビュー』第 4 号、2005 年 3 月.

Suzuki, Jun, “The Tragedy of the Author: A Perspective on the End of Hardy’s Fiction-Writing”, 『川内レビュー』第 4 号、2005 年 3 月.

吉田直希「<帝国>の犯罪システム—『乞食オペラ』と野蛮な黒人—」、『東北英文学会第 59 回大会 Proceedings』, 2005 年 3 月.

Sugimura, Yasunori, *A Reconsideration of Oa the Earth Goddess in William Golding’s ‘The Inheritors’. An Article from: The Modern Language Review. Digital Edition. The Modern Humanities Research Association & Thomson Gale. ISBN B0008FOBH0*, 2005 年 7 月.

Sugimura, Yasunori, “The Gaze and Counter-gaze inside a Pyramidal Structure in

- William Golding's *The Pyramid*", *Shiron* 43, 2006 年 3 月.
- Ono, Michiko, "Nature in Her Prime: Thoreau's View of Summer", 『川内レビュー』第 5 号、2006 年 3 月.
- 斉藤えい「『二都物語』に見られるキリストの教え—物語構造からの考察—」, 『川内レビュー』第 5 号、2006 年 3 月.
- Suzuki, Jun, "Poetics of Silence: Hardy's Anxiety and his Revision of his Precursors, Tennyson and James Thomson (B. V.)", 『川内レビュー』第 5 号、2006 年 3 月.
- 藤田真知子「「不在」を探し求めて—手紙として見た『ジュード』—」, 『川内レビュー』第 5 号、2006 年 3 月.
- Sugimura, Yasunori, "Golding as a Psychological Novelist", 『川内レビュー』第 5 号、2006 年 3 月.
- 福士 航「島の王女を追跡する—*The Island Princess* 改作について—」, 『東北英文学会第 60 回大会 Proceedings』, 2006 年 3 月.
- 福士 航「島を教化する—『魔法の島』における未完のプロジェクト」, *Shakespeare News*, Vol. 44, No. 3, 2005 年 3 月.
- Sugimura, Yasunori, 'Golding as a Psychological Novelist' 『川内レビュー』第 5 号、2006 年 3 月.
- Lu Dai, "The Role of Women in Tennyson's *Idylls of the King*", 『川内レビュー』第 7 号、2008 年 3 月.
- Scheibner, Kurt, "What Lies at the Heart of 'Count Gismond'?", 『川内レビュー』第 7 号、2008 年 3 月.
- Scheibner, Kurt, "A New Look at Browning's 'Evelyn Hope'?", *Shiron*, No. 44, 2008 年 3 月.
- Saigusa, Kazuhiko, "Golding's *Pincher Martin*: Rendering of the Techniques for Satire", *Shiron*, No. 44, 2008 年 3 月.
- 新井英永『D. H. ロレンスと批評理論—後期小説の再評価』(国書刊行会), ISBN: 4336050198, 2008 年 6 月.
- Sugimura, Yasunori, *The Void and the Metaphors: A New Reading of William Golding's Fiction* (Oxford: Peter Lang, 2008), ISBN: 978-3-03911-528-0, 2008 年 8 月.

(2) 口頭発表

- 福士 航「ふたつの『テンペスト』とロマンスの森の変容」、第 1 回シェイクス

- ピア・セミナー、2004年4月17日。
- 正宗 聡「Martin Amis の *Money*(1984)における「運動」の問題—時代とポストモダニズムの交差」、日本英文学会第76回大会、2004年5月23日。
- 吉田直希「<帝国>の犯罪システム—『乞食オペラ』と野蛮な黒人—」、東北英文学会第59回大会、2004年11月20日。
- 鈴木 淳「廃墟への巡礼—トーマス・ハーディとジェイムズ・トムソン(B. V.)」、日本英文学会第77回大会、2005年5月22日。
- 福士 航「島の王女を追跡する—*The Island Princess* 改作について—」、東北英文学会第60回大会、2005年10月29日。
- 早坂静「トニ・モリソン『ジャズ』の都市空間・時間」、東北英文学会第60回大会、2005年10月29日。
- 長田拓也「メイジーの知—隠喩の網としての対話的知識構築」東北英文学会第61回大会、2006年11月18日。
- 南部彰子「イザベルのアイデンティティと風景式庭園—『ある婦人の肖像』の<閉ざされた庭>と<開かれた庭>」、日本英文学会第49回大会、2007年5月19日。
- Nanbu, Akiko, 'Teachers' Perception and Team-Teaching in Upper Secondary Schools in Japan', The 41st International IATEFL Conference and Exhibition, 20 April 2007.
- Nanbu, Akiko, 'Teachers' Perception and Team-Teaching', JALT 2007: The Japan Association for Language Teaching 33rd International conference, 23 November 2007.
- 三枝和彦「*Brideshead Revisited* に描かれる父から息子への教育の欠如と価値観の断絶」、東北英文学会第62回大会、2007年11月17日。
- 長田拓也「*The Conjure Woman*: アンクル・チェスナットの“Conjure”」、東北英文学会第62回大会、2007年11月17日。
- 武蔵一弘「『ロード・ジム』—教育の失敗—」、東北英文学会第62回大会、2007年11月17日。
- 森山あゆみ「初期の Sylvia Plath 作品における語りの変貌」、東北英文学会第62回大会、2007年11月17日。
- Lu Dai, “‘Highest Duty, Highest Dignity’: Guinevere and the Role of Women in Tennyson’s *Idylls of the King*”, 東北英文学会第62回大会, 2007年11月17日。
- 駒込清太郎「カズオ・イシグロ作品における記憶—過去の改ざんと省略—」、東北英文学会第61回大会、2007年11月17日。

三枝和彦「ハクスリーのためらい—建築の表象における価値観の模索」, テクスト研究学会第8回大会, 2008年8月29日.

3 大学院生・学部生等の受賞状況

なし

4 日本学術振興会研究員採択状況

なし

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

04年度	学部	計1名	オーストラリア
	大学院	計1名	エクセター大学(連合王国)
05年度	学部	計2名	カリフォルニア大学(アメリカ合衆国)
			連合王国
	大学院	計1名	ウーロンゴン大学(オーストラリア)
08年度	大学院	計1名	エクセター大学(連合王国)

5-2 留学生の受け入れ状況(学部・大学院)

年度	学部	大学院	計
04	0	2	2
05	0	1	0
06	0	0	0
07	0	0	0
08	1	0	1
計	1	0	3

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
04	0	3	3
05	0	4	4
06	0	0	0
07	0	1	1
08	1	0	1
計	1	8	8

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

早坂 静 一橋大学講師 2004 年度
福士 航 北見工業大学助教授 2006 年度

7-2 専攻分野出身の高度職業人

中高等学校教員 16 名
出版社勤務 1 名

8 客員研究員の受け入れ状況

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

10 刊行物

『試論』（1958 年より年刊で刊行）
『川内レビュー』（2000 年より年刊で刊行）

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2004 年度 東北英文学会開催・事務局
デイヴィッド・テイラー氏（九州大学）講演会
ピーター・ロウリング氏（ウェスト・イングランド大学）講演会

- 2005 年度 東北英文学会（日本英文学会東北支部）事務局
ディケンズ・フェロウシップ日本支部総局
ピーター・ロウリングズ氏（ウェスト・イングランド大学）講演会
ピーター・ロビンソン氏（京都女子大学）講演会
- 2006 年度 東北英文学会（日本英文学会東北支部）事務局
ディケンズ・フェロウシップ日本支部事務局
トリスタン・コノリー氏（ウォータールー大学）講演会
トニー・ウィリアムズ氏（ディケンズ・フェロウシップ本部事務局
局長）講演会
ピーター・ロビンソン氏（京都女子大学）講演会
- 2007 年度 東北英文学会（日本英文学会東北支部）事務局
ディケンズ・フェロウシップ日本支部事務局
- 2008 年度 東北英文学会（日本英文学会東北支部）事務局
ディケンズ・フェロウシップ日本支部事務局

12 専攻分野主催の研究会等活動状況

2002 年度～2004 年度

- 大学院生読書会 毎週水曜日
- 小説を読む読書会 隔月 1 回

2005 年度

- 大学院生読書会 月 1 回
- 小説を読む読書会 隔月 1 回
- ポストコロニアル研究会 月 1 回程度

2006 年度

- 大学院生読書会 月 1 回
- 小説を読む読書会 隔月 1 回
- ポストコロニアル研究会 月 1 回程度

2007 年度

- 大学院生読書会 月 1 回
- 小説を読む読書会 隔月 1 回
- ポストコロニアル研究会 月 1 回程度

2008 年度

大学院生読書会 月 1 回

小説を読む読書会 隔月 1 回

1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去 5 年間の自己点検と評価

[研究活動]

研究室としての研究活動の具体的な成果としては、2 種の学術誌『試論』と『川内レビュー』の刊行が挙げられる。このうち『試論』は「試論」英文学研究会が、『川内レビュー』は東北大学英語文化比較研究会が、それぞれ発行主体であるが、いずれも英文学研究室が実質的活動拠点となっている。これらの学術誌は研究者に広く門戸を開放しており、とくに若手の研究者にとって研究成果発表のための重要な媒体となっている。

学会活動としては、当研究室は東北英文学会（2005 年度より日本英文学会東北支部と併称）の事務局となって、東北地区の英語・英米文学研究の拠点となっている。2005 年度からはディケンズ・フェロウシップ日本支部の事務局ともなっている。学会の誘致開催も積極的に行っている。原英一教授は日本英文学会の理事・大会準備委員、ディケンズ・フェロウシップ日本支部の支部長として、学会の運営にあっている。

2005 年 3 月に、14 年間勤務した外国人教師ピーター・ロビンソンが京都女子大学に転出した。ロビンソンはオックスフォード大学出版局から 3 冊の研究書を出版したほか、多数の論文を発表した傑出した研究者であり、同時に、現代イギリスを代表する詩人であった。幸いにもその後任として、ポール・ヴリトスが 2005 年 4 月に講師として着任し、そのフレッシュな感性と知性によって、新たな活力を与えた。ヴリトス講師は在職中に小説 *Welcome to the Working Week* (Orion, 2007) を英国で出版し、小説家としての活躍も開始した。2008 年 4 月にはヴリトス講師の後任として、イーアン・トウィッディ准教授が着任した。前任者と同じく二十代の俊英であり、現代詩を専門としている。岩田准教授は論文発表・学会活動さらに翻訳等の多面的な活動で学界の注目を集め、将来を嘱望される若手研究者となっている。

当専攻分野では、外部からの刺激を継続的に受けるために、毎年海外の専門家を招いて講演会を 1～2 回開催している。ケンブリッジ大学のエイドリアン・プール博士をはじめとして、優れた研究者が講演のみならず、大学院生のためのセミナーを行ってきた。

岩田講師が 2005 年度に総長裁量経費の獲得に成功したほか、外部資金の導入も順調であり、全体的に見ると、研究活動はきわめて活発であったと言える。

[教育活動]

大学院生の指導の下に英詩読解を行わせる「詩のオリエンテーション」が毎年実施されてきた。3～4つのグループに分かれての発表会は例年3時間を超える熱のこもった内容となっている。3年次学生にとっても、指導する立場である大学院生にとっても非常に高い教育効果をあげていると判断される。「アサインメント」は、以前の試験方式からレポート方式に変えたことによって、とくに外国人教師の課題に対する英文エッセイ執筆という点で、内容が充実してきている。年に1回実施される研修旅行では、外国人教師による講演、学会での研究発表リハーサル、英語劇の朗読など、多様なプログラムにより、学生・院生が相互に切磋琢磨している。

大学院前期課程（修士課程）の学生の就職先としては、高等学校の英語教員が圧倒的に多くなった。今後は英語教師としての訓練も視野に入れた教育がますます必要とされることから、それに応じた教育体制と内容の整備が必要と考えている。大学院後期課程（博士課程）では、社会人研究者コースで入学する現役研究者が多数となった。これらの大学院生に対する教育体制は必ずしも十分であるとは言えない。今後は夏期休業期間中にスクーリングのようなものを実施するなどの対策が必要になると思われる。課程博士号授与件数は5年間で6名となった。2008年度においても複数の授与が見込まれている。しかしながら、その大部分が社会人研究者コースに入学した現役研究者であり、前期課程からの進学者が少数であることは、若手研究者の育成という点で問題であると認識している。

後期課程院生については、日本学術振興会研究員（PD）への応募を積極的に奨励し、申請書の作成にあたってはきめ細かな添削指導を行っている。結果につながっていないのが残念であるが、近年競争率がきわめて高くなっていることが原因であると思われる。PD申請者についても十分な量の研究業績が必要とされるようになってしていると推定されるので、大学院生に対してはさらに積極的な論文発表を促したい。研究職に就職することができた大学院生は5年間で2名であるが、これは現在の超氷河期的な就職状況の中で見れば、かなりの好成績とも言える。

Ⅲ 教員の研究活動（2004～2008年度）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

原 英一「都市ロマンス劇とディケンズの初期小説に関する超ジャンルの研究——平成17年度～平成18年度科学研究費補助金（基盤研究(C)(2)）研究成果報告書——」, 2007年.

- 原 英一 「『バーナビー・ラッジ』と徒弟のロマンス」、『ディケンズ・フェロウシップ日本支部年報』第27号、2004年。pp.128-148.
- 原 英一 「英国小説の起源としてのルネサンス期ドメスティック・ドラマの研究—平成14年度～平成15年度科学研究費補助金（基盤研究(C)(2)）研究成果報告書—」, 2004年.
- 岩田 美喜 「世紀末の〈夜の子供たち〉—『ドラキュラ』におけるアブジェクションの作用—」, 『川内レビュー：英語文化比較研究』第3号, 59-78, 2004.
- Iwata, Miki, 'Irish Dandy: Wilde's *Unnaturalism in The Importance of Being Earnest*', 『東北大学文学研究科研究年報』第59号, 50-62, 2005.
- 岩田 美喜 「反乱局長ジョン・オーグルビー—王政復古期のダブリンにおける『バーソロミュー市』上演の意義—」, 東北大学文学会, 『文化』第68巻第3.4号, 1-20, 2005.
- 岩田 美喜 「誰が〈殉教〉を殺したか—『寺院の殺人』に組み込まれた中世劇、ギリシア悲劇と探偵小説の重層関係—」, 『川内レビュー：英語文化比較研究』第4号, 105-26, 2005.
- 岩田 美喜 「「時代じゃない, 人なんだよ, 違うのは」—『シジエイナス』における同時代性と歴史性—」, 東北英文学会第60回大会 Proceedings, 16-23, 2006.
- Iwata, Miki, '*Theatrum Mundi Resurrecta: Shakespeare and W. B. Yeats in 'Easter 1916' and The Dreaming of the Bones*', 『試論』第43巻, 1-22, 2006.
- 岩田 美喜 「復活祭蜂起と〈世界劇場〉— イェイツにおける政治・魔術・シェイクスピア」, 『テキストとコンテキストをめぐって— W・B・イェイツの場合』, 英宝社, 75-107, 2006.
- Iwata, Miki, "His Other Islands: Peter Robinson, Languages, Traditions." Adam Piette and Katy Price eds., *The Salt Companion to Peter Robinson*. Cambridge: Salt Publishing, 193-206, 2007.
- Iwata, Miki, 'Records and Recollections in *Krapp's Last Tape*.' *Journal of Irish Studies* 23 (2008), 1-10.
- Vlitos, Paul, 'Dining with Dickens in Trinidad: Meals and Meaning in V. S. Naipaul's *A House of Mr. Biswas*', 『試論』第43巻, 41-63, 2006.
- Vlitos, Paul, "Conrad's Gastronomy: Dining in 'Falk'", *Shiron*, No. 44, 2008

年 3 月.

Twiddy, Iain, 'Grief Brought to Numbers: Paul Muldoon's Circular Elegies', *English*, vol. 55, no. 212 (Summer 2006). 2006

Twiddy, Iain, 'Seamus Heaney's Versions of Pastoral', *Essays in Criticism*, vol 56, no. 1 (January 2006).

Twiddy, Iain, 'The Pastoral Elegy in Contemporary British and Irish Poetry' (PhD thesis, January 2006, University of Sheffield library). 2006

1- 2 著書・編著

原 英一, 西條隆雄他 (編著) 『ディケンズ鑑賞大事典』 (南雲堂), 2007.

岩田美喜・竹内拓史 (編) 『ポストコロニアル批評の諸相』, 東北大学出版会, 2008.

Vlitos, Paul, *Welcome to the Working Week* (Orion), 2007.

1- 3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

(1) 翻訳

原 英一, 抄訳 チャールズ・ディケンズ『ボズのスケッチ集』, 『川内レビュー: 英語文化比較研究』第 6 号, 138-61, 2007.

岩田 美喜, 翻訳 シェイマス・ヒーニー「清算」, 阿部公彦・編『しみじみ読むイギリス・アイルランド文学』(研究社), 61-73, 2007.

岩田 美喜, 翻訳 アリ・スミス「五月」, 阿部公彦・編『しみじみ読むイギリス・アイルランド文学』(研究社), 179-202, 2007.

(2) 書評

原 英一, 富山太佳夫『文化と精読—新しい文学入門』 (名古屋大学出版会, 2003 年), 『英語青年』1859 号, 研究社, 2004.

原 英一, 鶴見良次『マザーグースとイギリス近代』 (岩波書店, 2005 年), 『英語青年』2006 年 1 月号, 2006.

原 英一, 樋口欣三『ウォルター・スコットの歴史小説—スコットランドの歴史・伝承・物語』 (英宝社, 2006 年), 『英文学研究』2008 年和文号, 2008.

岩田 美喜, Stephen Orgel, *The Illusion of Power* (Berkeley: U of California P, 1975), *Shakespeare News*, 第 45 巻第 1 号, 22-25, 2005.

岩田 美喜, 武藤浩史『『ドラキュラ』からブンガク』 (慶應義塾大学教養研究

- センター, 2006年) 『英語青年』 1892号, 研究社, 430, 2006.
- 岩田 美喜, 杉山寿美子『アベイ・シアター1904-2004』(研究社, 2004年). 『英文学研究』和文号第83巻, 168-171, 2007.
- 岩田 美喜, David Holdeman, *The Cambridge Companion to W. B. Yeats* (Cambridge: Cambridge UP, 2006) 『イエイツ研究』, 第38号, 135-37, 2007.
- Vlitos, Paul, Francis O'gorman and Katherine Turner, *The Victorians and the Eighteenth Century* (2004), *TLS*, Dec 3, 2004.

(3) 解説

- 原 英一、「小説家漱石、その語りの原点- ホガース、ドラローシュ、ミレイ」、
『英語青年』2008年9月号、2008
- 原 英一、「善の弱さ、アクの強さ」、『英語青年』2007年6月号、2007.
- 原 英一、「分裂した日本人- マサオ・ミヨシの軌跡」、『英語青年』2006年11月号、2006.
- 原 英一、「18世紀小説の「演劇的語り」と「ポストモダンの語り」」、『英語青年』2005年2月号、2005.
- 岩田 美喜、「ベケットが見たもの」、『英語青年』1858号, 研究社, 34, 2004.
- 岩田 美喜、「復活祭蜂起と<世界劇場>」、『イエイツ研究』35号, 61-63, 2004.
- 岩田 美喜、「ロンドンのステージ・アイリッシュマンと<標準英語>教育」、『日本英文学会第78回大会 Proceedings』, 119-121, 2006.
- 岩田 美喜、「飲みものとイギリス文学」、千種眞一・編『食に見る世界の文化』(東北大学出版会), 119-58, 2007.
- 岩田 美喜、「ミッシング・リンクとしてのメロドラマーロマン主義時代の演劇」、『英語青年』1901号, 209-11, 2007.
- 岩田 美喜、「『煉獄』における<詩>と<主題>の形成過程について」、『イエイツ研究』, 第38号, 120-21, 2007.

(4) 辞典項目

- Iwata, Miki, 'First performance of *A Paulownia Leaf*, 'In the Grove', and 'Fires on the Plain', *The Little Black Book of Books: A Century of the Greatest Books, Writers, Characters, Passages and Events that Rocked the Literary World*, Lucy Daniel, ed. (London: Cassell Illustrated), 2007.

1- 4 口頭発表

(1) 国際学会

Twiddy, Iain, 'Pastoral and Aftermath in Seamus Heaney's *Electric Light*', Chinese University of Hong Kong, 23 March 2007.

(2) 国内学会

原 英一、日本ロマン派学会第 31 回全国大会招待講演「都市のロマンス」、2005 年.

原 英一、日本シェイクスピア協会第 46 回大会セミナー「ミドルトン- マネー・セックス・ゲームの劇空間」、2007.

岩田美喜 第 43 回シェイクスピア学会研究発表「反乱局長 John Ogilby- 王政復古期のダブリンにおける *Bartholomew Fair* 上演の問題- 」, 2004.

岩田美喜 第 77 回日本英文学会研究発表「作家- 『批評家』- 政治家: R・B・シェリダンと対仏戦争危機」, 2005.

岩田美喜 第 60 回東北英文学会研究発表「「時代じゃない、人なんだよ、違うのは」- 『シジエイナス』における同時代性と歴史性- 」, 2005.

岩田美喜 第 78 回日本英文学会シンポジウム「英文学と<文明化>の変遷: ロンドンのステージ・アイリッシュマンと<標準英語>教育」, 2006.

岩田美喜 日本イェイツ協会第 42 回大会ワークショップ「『煉獄』における<詩>と<主題>の形成過程について」, 2006.

岩田美喜 日本シェイクスピア協会第 46 回大会セミナー「ミドルトン- マネー・セックス・ゲームの劇空間」, 2007.

Iwata, Miki, IASIL JAPAN: The 24th International Conference, 'Records and Recollections in *Krapp's Last Tape*' 2007.

岩田美喜 日本イェイツ協会第 44 回大会ワークショップ「*The Unicorn from the Stars* をめぐって」, 2008.

Twiddy, Iain, 'Pastoral Elegy and Paul Muldoon's 'The Stoic'', University of York, 17 February, 2006.

Twiddy, Iain, 'Outside', University of Sheffield, 27 May, 2005

2 教員の受賞歴 (2004~2008 年度)

なし

IV 教員による競争的資金獲得（2004～2008 年度）

（1）科学研究費補助金

平成 13-14 年度「特別研究員奨励費」岩田美喜（研究代表者）課題番号 07929「W・B・イエイツの演劇作品に見る 20 世紀的現実認識の構築と解体」1,400,000 円（2 年間総額）

平成 14- 15 年度 科学研究費補助金「英国小説の期限としてのルネサンス期ドメスティック・ドラマの研究」原 英一（研究代表者）、2,800,000 円（2 年間総額）

平成 17- 18 年度 科学研究費補助金「都市ロマンス劇とディケンズの初期小説に関する超ジャンルの研究」原 英一（研究代表者）、3,000,000 円（2 年間総額）

平成 16-18 年 科学研究費補助金「若手研究 B」岩田美喜（研究代表者）課題番号 16720053「モダニズム演劇における神秘思想の政治的機能とその間テクスト性に関する比較文化的研究」、3,400,000 円（3 年間総額）

平成 19-20 年度 科学研究費補助金「17・18 世紀都市ロマンス文学とその精神史に関する史的研究」原英一（研究代表者）、4,006,000 円（2 年間総額、内平成 19 年度間接経費 540,000 円）

平成 19-21 年 科学研究費補助金「若手研究 B」岩田美喜（研究代表者）課題番号 19720058「近代英語演劇におけるステージ・アイリッシュマン表象の政治・文化史的研究」、3,300,000 円（3 年間総額）

（2）その他

平成 17 年度総長裁量経費による若手研究者萌芽研究育成プログラム

「ポストコロニアリズムのテクストにおけるアイデンティティの比較文化史的研究」岩田美喜（研究代表者）、ヴリトス、ポール（分担）3,500.000 円

V 教員による社会貢献（2004～2008 年度）

原 英一

高大連携特別授業 東北大学公開講座（宮城県仙台第一高等学校）（2005 年）

公開講演（「夏目金之助先生の英文学」仙台文学館文学サロン「東北大学創立 100 周年記念特別展 学都に息づく夏目漱石の精神 仙台の「漱石文庫」

から」) (2008年)

公開講座(みやぎ県民大学) (2008年)

岩田美喜

公開講座(みやぎ県民大学) (2004年)

高校出張授業(宮城県立第二女子高等学校) (2004年)

公開講座(第三期有備館講座) (2006年)

高校出張授業(福島県立安積高等学校) (2006年)

高校出張授業(山形県立南陽高等学校) (2007年)

公開講座(文学サロン) (2007年)

公開講座(みやぎ県民大学) (2008年)

ヴリトス、ポール

講演会(仙台国際センター) (2005年)

VI 教員による学会役員等の引き受け状況(2004~2008年度)

原 英一

日本英文学会理事(2002年度~)

日本英文学会大会準備委員会副委員長(2005年度)

日本英文学会大会準備委員会委員長(2006年度)

東北英文学会(日本英文学会東北支部)会長(支部長)(2001年度~)

ディケンズ・フェロウシップ日本支部 理事(2001年度~2004年度)

ディケンズ・フェロウシップ日本支部 支部長(2005年度~)

岩田 美喜

東北英文学会事務局(2003年度~)

日本イェイツ協会役員(2007年度~)

VII 教員の教育活動(2008年度)

(1) 学内授業担当

1 大学院授業担当

原 英一 教授

1学期 英文学特論Ⅰ キップリング小説研究

2学期 英文学特論Ⅱ キップリング小説研究

通年 課題研究(英文学)(岩田准教授・トウィッディ准教授と共同)

岩田美喜 准教授

- 1 学期 英語文化論特論 I 18 世紀のフィクションを読む
- 2 学期 英語文化論特論 II 18 世紀のフィクションを読む
- 通年 課題研究 (英文学) (原教授・トウィッディ准教授と共同)

トウィッディ、イーアン 准教授

- 1 学期 英文学研究演習 I The Poetry of Tennyson
- 2 学期 英文学研究演習 II The Poetry of W. B. Yeats
- 1 学期 英文学研究演習 I Writing for the postgraduate
- 2 学期 英文学研究演習 II Writing for the postgraduate
- 通年 課題研究 (英文学) (原教授・岩田准教授と共同)

阿部公彦 講師 (非常勤講師・東京大学)

- 集中 (1) 英文学特論 III 英詩の甘み- シェイクスピアの『ソネット』を中心に

2 学部授業担当

原 英一 教授

- 3 セメスター 英文学概論 ディケンズ小説論
- 4 セメスター 英文学概論 ディケンズ小説論
- 4 セメスター 英文学基礎講読 II 英米短編小説読解入門
- 5 セメスター 英文学演習 I ロバート・ボルトの歴史劇読解

岩田美喜 准教授

- 3 セメスター 英文学基礎講読 I 英詩講読入門
- 5 セメスター 英語文化論各論 シェイクスピアの悲劇を読む
- 6 セメスター 英語文化論各論 20 世紀イギリス演劇読解
- 5 セメスター 英文学各論 アイルランド演劇史(1)
- 6 セメスター 英文学各論 アイルランド演劇史(2)
- 6 セメスター 英文学演習 II ブラウニングの詩を読む

トウィッディ、イーアン 准教授

- 3 セメスター 英文学・英語学基礎講読 I Mary, Shelley, *Frankenstein*
- 4 セメスター 英文学・英語学基礎講読 II Pat Barker, *Regeneration*
- 5 セメスター 英文学演習 Reading Seamus Heaney
- 6 セメスター 英文学講読 Shakespeare's *Henry V*

阿部公彦 講師 (非常勤講師・東京大学)

集中 (1) 英文学特論Ⅲ 英詩の甘み- シェイクスピアの『ソネット』を中心に

3 共通科目・全学科目授業担当

トウィッディ、イーアン 准教授

全学共通科目

3 セメスター 実践英語

4 セメスター 実践英語

(2) 他大学への出講 (2004~2008 年度)

原 英一 教授

東北学院大学大学院 (2004 年度)

九州大学文学部・大学院文学研究科 (2004 年度)

筑波大学文芸・言語学系研究科 (2004 年度)

神戸大学文学部・人文科学研究院 (2005 年度)

東北学院大学・文学部・文学研究科 (2005 年度)

東北学院大学・文学部・文学研究科 (2006 年度)

東北学院大学・文学部・文学研究科 (2007 年度)

東北学院大学・文学部・文学研究科 (2008 年度)

岩田美喜 准教授

東北学院大学・文学部 (2004 年度)

東北学院大学・文学部 (2005 年度)

東北学院大学・文学部 (2006 年度)

東北学院大学・文学部 (2007 年度)

東北学院大学・文学部 (2008 年度)

岩手大学・教育学部 (2008 年度)